

スマホ電池、長寿のコツは？

【画面の光度抑え機能吟味】

スマホの消費電力で最も大きいのは実はモニターの光。これを減らせば効果は大きい。方法は大きく2つある。

まずは画面の明るさ調整。iPhoneの場合は「設定」→「画面表示と明るさ」、Androidは「設定」→「ディスプレイ」→「画面の明るさ」と進む。光度を落とせば消費電力を減らせる。

もう一つは画面がロックする間隔を短くする方法だ。最後に操作してから画面が暗くなるまでの時間を短くして電力の浪費を防ぐ。iPhoneは「設定」→「一般」→「自動ブロック」、Androidは「設定」→「ディスプレイ」→「スリープ」と選ぶ。30秒、1分など段階的に設定できる。いずれも機種によって手順が異なる場合がある。

スマホは画面から見えないところでアプリケーションソフト（アプリ）が働いたり、外部と通信したりしている。こうした機能を、支障がない程度に制限するのも節電につながる。

例えば、家庭で使うことが多い無線通信のW i - F i を外出時にはオフにする方法。スマホは一定間隔でW i - F i をオフにすればこうした動きが止まる。使っていないアプリをこまめに切る。

最新のiPhoneの場合は「設定」→「バッテリー」でアプリごとの電力使用割合が表示される。それでもバッテリーが残りわずかになったら、「機内モード」を勧める。ネットや電話などすべての通信がオフになるが、消費電力も極限にまで抑えられる。最後の手段として覚えておいてもよさそうだ。

【残量 90 ~ 40%が理想的】

スマホに使うリチウムイオン電池は軽量小型で大容量が特長だが「過充電」「過放電」「高温」に弱いのが欠点だ。特に電池残量がゼロに近づく過放電をどう防ぐかが、長持ちのポイントになる。

電池工業会（東京・港）の新井田茂秋部長は「最低でも 30%を
きらないよう、こまめに充電してほしい」と助言する。リチウムイ
オン電池は過放電が続くと劣化し、充電容量が減少するからだ。

「残量ゼロにしてから充電すると長持ちする」と考える人もいるが、これはニッカド電池やニッケル水素電池時代の話。充電を繰り返す「継ぎ足し充電」もよくないといわれたが「リチウムイオン電池では充電の回数自体はあまり問題にならない」（新井田部長）。電池の残量を「90～40%の幅に収まりるように充電をコントロールするのが理想的」という。

充電し過ぎも劣化につながるが、最近は一定以上の充電を防ぐ保護回路を備えたスマホが増えた。長時間は避けたいが、寝ている間の充電くらいなら問題ないようだ。

リチウムイオン電池は充電中も放電中も熱を発する。高温が続けば劣化が加速する。「充電しながら電話をかける」といった使い方は発熱が重なるので避けた方が無難だ。

スマホ電池を使いこなすには細心の注意が必要のようだ



(日経プラスワン日経電子版から転載)



代表 黒澤美恵子

私は根っからガラケー派。
調べ物をが多くてタブレットを持っているけど、ガラケーはゼットタイです！



Jump Hidaka.co.

日高運輸株式会社

住所：高崎市日高町 1049

TEL : 027-362-1887

Mail : hidakauny.co.jp@

aw.wakwak.com

H P : <http://hidakaunyu.com>

2016年9月

No. 181

体調万全で安全運転を！

早いもので暦では、初夏（6月）、盛夏（7月）、晩夏（8月）と夏の季節が去り、初秋の9月に入りました。しかし、この三夏が去っても大気が不安定で高温多湿の日々が続いています。プロのトラック運転者としては、このような気象状況の下でも安全運転を実践し、顧客様（荷主様）の期待に応えなければなりません。そこで身の健全な管理のポイントを紹介しましょう。すでで確認して下さい。一つでも増やせばよいですね。

記

- 1 健全な心身の自己管理
- (1) 一定の時間に就寝し、睡眠は最低7～8時間とる！
- (2) バランスの良い食事を規則正しくとる！
- (3) ふだんから適度な運動を過度な運動は避ける！
- (4) 休日は趣味などでストレス解消！
- (5) 健康診断で病気を早期発見！
- (6) 大きなイビキをかく人は病院で診察を！
- (7) 特に中高年ドライバーは、こまめに身体機能をチェック！
- (8) 体調不良のときは、運転を控える！

2 飲酒の危険を理解

(1) モノを見落としやすくなる！

(2) 「動体視力」が低下する！

(3) 「深視力」が低下する！

(4) 視野が狭くなる！

(5) ブレーキを踏むときの反応時間が延びる！

(6) 誤った操作をしやすくなる！

(7) 注意力が低下する！

(8) 微量の飲酒でも悪影響は顕著に表れる！



一 口 ヌ モ

リオ五輪が閉幕した。日本は、過去最多のメダル41個を獲得。熱戦激闘を終えた多くの選手は、多くの人達に支えられ、生かされている。この支援、応援があつてのメダルへ感謝、感謝！固い絆で結ばれた団結の力が熱い燃える力を発揮させてくれたなどのいろいろな思いがあるのではなからうか。

物流の基幹産業として位置づけられているトラック運送事業においても、事業の底力となっている運転者の相互の連携と絆によって創造された大きな輪が大切ではないかと思う。

“体調万全で安全運転を続けていこう”



日本の自動運転の時代は近い?!

【自動運転技術】

JARI(一般財団法人日本自動車研究所)では、自動運転制御技術や隊列走行制御技術の研究開発を行っています。2008～2012年度までの5年間、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)から受託した運輸部門の省エネルギー化を目的とした「エネルギー ITS 推進事業(自動運転・隊列走行技術の研究開発)」を実施し、JARI 産学公15機関の共同研究先の取りまとめ役となって、時速80km、車間距離4mでの、トラック4台の自動運転・隊列走行技術の開発に成功しました。



(隊列走行実験風景)

(一般財団法人日本自動車研究所)

〈国交省〉自動運転に「日本基準」世界標準狙う!

国土交通省が、自動運転の国際基準作りに乗り出すことが平成28年9月28日、決まりました。自動運転は日米欧の自動車メーカーやIT企業の開発競争が激化していますが、どのような技術や規格に対応すれば安全かといった規制や基準は整備されていません。国交省は、日本の技術を背景とする国際基準を世界の標準にすることで、国際競争力を高めたい考えのようです。

国土交通省の工程表によれば、高速道路上での自動走行(ブレーキ、ハンドル、アクセルの複数を自動走行)は、早くも2018年頃とされているが一般道路は2020年頃。完全自動運転を視野に入れた「より高度な自動走行」は2021年以降になるようです。

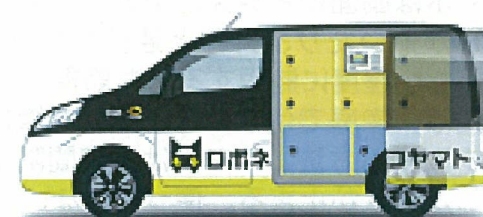


(Yahoo! JAPAN ニュース)

「ロボネコヤマト」登場!!

ヤマト運輸とDeNAが共同で行う、自動運転技術活用した次世代物流サービス

「ロボネコヤマト」ではトラックやワゴン車ではなく、自動運転機能を搭載したワンボックスカー程度の車両が使用されます。一口に自動運転といっても、「自動」になる範囲は千差万別です。国土交通省のガイドラインによれば、自動運転のレベルは4つに分けられます。レベル1がアクセル、ブレーキ、ハンドルのいずれかを自動車が行う状態で、現時点でもブレーキ補助のような形で実現しています。レベル2はそのうち複数の操作を自動車が行う状態。レベル3はそのうちの全てを自動車がいき、緊急時のみ運転者が対応する状態。そしてレベル4は、運転者が操作に全く関与しない「完全自動走行」状態。現行法制でできる範囲については議論が分かれるところです。両社は「レベル3までは現行法制で現実可能」と解釈しており、2018年2月ごろをめどに、各車両に「レベル3」の自動運転機能を搭載する予定。



このサービスでは、荷物が最寄りの配送センターまで到着すると、受け取り主のもとに、スマートフォンのアプリでその旨が通知され、受け取り主は、通常配送か、オンデマンド配送かのどちらかを選択することができ、後者を選択すると受け取り場所を指定し、その場所まで近づいてきた配送車両を止め、ドアを開けて荷物を取り出すという仕組み。

配送車両には荷物ごとのボックスが備え付けられ、固有のパスワードが利用者に伝えられ、こうして他の荷物は取り出せないようにするなど、セキュリティ対策も講じている。

もう1つのサービスが、買物代行サービス。商品をネットで購入すると、近くの商店から商品が発送され、「オンデマンド配送サービス」と同じ要領で、好きな時間、好きな場所で荷物を受け取れるというものです。

(DeNA 発表資料)

アメリカ流通業の最新動向

グーグルが無人運転車配送システムを特許出願

(2016年7月4日)

無人運転車の実用化を目指しているグーグルが、無人運転トラックを使った宅配システムの特許出願しました。

アメリカ合衆国特許商標庁に出願された書類には「自立型配送プラットフォーム (Autonomous Delivery Platform)」と名付けられており、グーグルが現在テストを行っている無人運転車の技術を応用したものとなっています。

自立型配送プラットフォームは、ロッカーが荷台に載っている無人トラックが目的地である注文書宅へ行き、注文者はロッカーから宅配物を取り出す仕様となっており、それぞれのロッカーにはキーパッドが付いており、PINコードやクレジットカード番号の入力、スマートフォンのNFC(Near Field Communication)技術でロックを解除して商品を取り出す仕組みとなっています。



(実験を進めているグーグルの無人運転車)

(USAC SYSTEM 提供)